



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年2月1日

2月号・第181号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



三輪山登拝（安全と好天の祈願）

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	俳句百景	12
多土済々	2	癒しの散歩道&ならやま茶論	13
Monthly Repo.ならやま	3	仲間入りしました	14
里山の今	4・5・6	ギャラリーならやま	15
鳥シリーズ&1月歴文研修会・報告	7	ならやまプロジェクト	16
12月・歴文研修会・報告	8	行事案内part1	17
1月・自然教室・報告	9	行事案内part2 & 第5地区ネーミング	18
新春講演会・報告	10	幹事会報告・編集後記	19
夢・未来を語る集い・報告	11		

壮春力歩

会長 鈴木 末 一

ジョロウグモに学ぶ

ならやまの活動が終り帰宅すると、ワイワイと賑やかな話し声が聞こえてきた。隣近所の主婦たちが、真顔で顔を突き合わせながら、「ああでもない」「こうでもない」と。話題は何なのかと聞き入ること暫しであった。少しの間ができた時に、ならやまの活動の様子などを織り交ぜて、話の輪の中へ入っていった。

すると、一人の方が、自宅の庭に巣を張っているジョロウグモの観察記を熱っぽく語り始めたのである。昨年の晩夏の頃に、庭木と庭木の間でジョロウグモが巣を作っていた。幼小の頃から昆虫類が好きだったので、一挙一動をつぶさに観察し始めたという。その日は昼食も摂らずに夕刻までずーっと仕草を見つめ続けたのである。巣の張り方、獲物を捕まえる様子、その獲物の保存方法、巣が壊れた時の修復の仕方など、メモ帳を片手に克明に記録し続けた。クモの各種の習性に感動を覚えた主婦は、年を越した新春までの間の約5ヶ月、ほぼ毎日観察を続け、昆虫博士とは違う視点観点が盛り込まれた「ジョロウグモ観察日記」が完成したのであった。

主婦の話の要旨は、次のような内容であった。

ジョロウグモは漢字で「女郎蜘蛛」と書くので、遊女を連想して付けられたものと早合点していたが、念のため由来を調べてみると、意外なことが判った。古人はジョロウグモの姿を雅やかで艶やかだと感じて、当時の身分の高い女官の上臈（ジョウロウ）に擬（なぞら）えて名付けたのだと言われている。

綺麗好きで獲物の保管保存も整理整頓し、古いものから順番に食べる。産卵直前のメスは、丸々と太っているが、妊娠前(?)や産卵後は本当にスリムなので、まるで別の種類であるかのように見える。秋になり、ジョロウグモの大きな巣を四六時中じっと眺め続けていると、巣の中に、メスの

の三分の一にも満たない小さなクモが同居しに来る。オスである。まるで居候であるかのようにも思われる。そこで、どのような求愛行動をするのか見ていると、正面からはメスに近づかずに、メスが食餌中か脱皮直後かを選んで、-背後から交尾の機会を待つのである。何故背後からなのかと考えてみたところ、オスにとって巨大なメスに食われてしまう恐れがあるようだ。オスにとっては、種を残すための命がけの本性なのであろう。これも成人と幼児ぐらいの差があるのだから、致し方ないのは言うまでもない。

また、冬場になり産卵期を迎えると、腹部の色彩や模様が本当に鮮やかになってくる。(縞模様が大変お気に入りである。タイガースファン?なので納得)。大きな腹部をルーペで観察すると、歌舞伎の隈取りをも連想できる。

視覚はあまり良くないように思われた。それは、巣の糸を時々足で振動させているのに気づいた。巣にかかった昆虫類の獲物が、巣のどこにかかっているのかをエコー振動(?)で察知するのではないか。何故なら、獲物がかかったら、視覚が良ければ直ぐに獲物に近づいていくはずである。

2匹いたメスの内、1匹は年末にはいなくなってしまった。恐らく無事に産卵をして一生を終えたのであろう。もう1匹は正月明けにも見かけたが、最近は見かけなくなった。庭木の根元附近を探してみたが、見付けることはできなかった。母親の役目を果たしたのであろう。

約5カ月間のジョロウグモとの観察交友日記は、貴重な宝物である。

一部始終を聞き終わった時、「絵本にすると良いですね」と、主婦に持ちかけてみた。すると「それよりもジョロウグモの日常行動は、私たちが見習わなければならないことが沢山あります。今年もジョロウグモとの再会が待ち遠しいです」とのこと。

今まで巣を見付けると小枝などで追い払ったりしていたが、私も今年はじっくりと観察して、ジョロウグモから多くのことを学んでみようか。「几帳面さ」「整理整頓好き」、それにオスの慎重さなど、「一寸の虫にも五分のイキザマ(?)」を。

多士 済々

こっこっ耕耘！
中西 建夫さん

「里山有機野菜」はいつも好評。シートに広げられた“とれとれの野菜”の周りに多くの人が集まります。「販売を始めます。今日のお野菜は…」

と広報される前から立ちんぼです。ならやまベースキャンプ昼食後の風景です。

秋田三笠園さんからの枝葉チップと植村牧場さんからの厩肥、さらに米糠が加わると万全、これらが熟成してできる堆肥がこの里山エコ田畑の力の源泉です。エコグループの皆さん方のご尽力に加え、中西さんの耕耘機が活躍します。今でこそふかふかの土になっていますが、長年放置されていた粘土質・石混じり・ブルでかき混ぜた後の土壌作業は大変でした。「ヤンマーの管理機」馬力の大きいものを購入、爾来ずうっとずうっと主に中西さんが耕しつづけてくれた賜物なのです。

いつも物静かで寡黙な中西さんが声を掛けてくれました。「阿部さんこれ見てご覧……」新品だった耕耘機の回転刃を見て仰天しました。幅数cmあった耕耘の刃がすり減って針金状です。新品購入の回転刃が、見る影も無く細くなっていたのです。針金が土に突き刺さって耕耘するようにさえ見えます。初期の硬い土・大小の石ころが耕耘作業に大きな負荷を与えている現実を目にした一瞬でした。その頃は「畝たて」も簡単ではなく、大変な作業でした。

黙々と土と向き合い、次々と広がってゆく畑作地の作業に大変な労力を注がれ、今日の素晴らしい土ができあがっているのです。最近西出さんというエキスパートが参加してくださり、「良き理解者・相棒ができた」と話されます。簡単な作業のように見えますが、機械の操作には知恵と工夫、そして腕力・体力が必要なのですね。

顧問 阿部 和生

健康な身体は、若い頃在籍された自衛隊での訓練で鍛えられたのでしょうか。温厚なその表情からはその頃の精悍な顔つきは想像できません。

この1月の寒波襲来、積雪の様子がTVで放映されました。中西さんは、50年以上前の三八豪雪と呼ばれる日本海側を中心とした大寒波襲来るとき、福井駅周辺部への災害救助派遣命令で出動。2階から人が出入せざるを得ない状況、年末年始から断続的な寒波の後の、さらにすさまじい豪降雪のなか、除雪・救援に参加されたそうです。装備が今のように十分でなかった、その頃の不断の活動を思い出されたそうです。よほどの厳しい環境での作業の連続の昼夜であったのでしょうか。

国立奈良文化財研究所に転身され、平城宮跡や藤原宮跡、橿原等に勤務され、飛鳥資料館勤務を最後に仕事から離れられました。その間、時には現在歴史文化クラブの助言者である岩本先生を支えられる出会いがあり、中西さんのご縁で岩本先生をこの会に紹介してくださり、会に参加くださるようになりました。人の輪の力ですね。

「ならやま」に來られてしばらくして、お医者さんが偶然不整脈を見つけて即手術、短時間で健康を取り戻されるという事件がありました。よほどの幸運と決断があったと思えます。心臓に電気を通す…思うだけでびびりますもの。短期の治療で完治し、今健康は太鼓判、何ら支障なくますますお元気です。

趣味の機械いじりや花台制作、そして“ならやま”。奥様ともども悠々の毎日をお過ごしです。



「大過ない人生」なんて言うは易く、なかなか難しいものです。素晴らしい！

Monthly Repo. **ならやま**

八木 順一

12月22日(木) 活動 曇り 74名+1名

H. 28
年最後の活動になった。しかし75名がサイトに集まる。打ち合わせ後、全体の



清掃作業に取り掛かるが、きれいに見えたあちこちから、沢山のごみや不法投棄物が見つかる。その後の各Gの活動は、今年一年お世話になった機械や備品の整備・点検をはじめとして迎春準備が主なものになる。すがすがしい気持ちで新年の活動を始めたいものだ。昼食には、会員提供のお米を使い、賄い班協力の混ぜご飯が供される。おいしいの言葉に尽きる。有難いことである。また、食事の後、迎春用干支の置物の製作の講習会が行われる。子供に返った表情の会員は真剣そのもの。すばらしい新年を、と願わざるを得ない。新入会員1名、シニア1名。

1月5日(木) 活動 晴れ 75名+5名

年頭の初出式。餅つきの後、お屠蘇の乾杯で式が始まる。餅や七草粥、その他甘酒等を堪能した。



元気に着実に今年一年の活動が出来れば、と願う。打ち合わせでは、会長の年頭の挨拶の他、懸案となっていた第五地区の正式名称が「ならやま実りの森」と発表される。また、昼食後にグループミーティングを行ったGもあった。各Gでは、薪割

りや野菜の収穫、その他駐車場の草刈り等、元気に一年の活動を始めた。その他、池の整備、柵作り、そしてパトロールやミーティングを行った班もあった。5名の来訪者。

1月12日(木) 活動 晴れ 66名+2名

本格的な寒さの中での活動になったが、66名の参加者があり、熱心に活動に取り組む。打ち合わせでは、目前に迫った15周年記念「夢・未来を語る集い」や「新春講演会」関係の連絡が中心となった。準備も順調に進み、成功裡に終わって欲しいものだ。Gの活動も、畑や林、そして池の整備等、春を見据えての準備が中心となる。その他、継続して取り組んできた観察路の階段修理や池の木道修理等も成果をあげた様だ。また、木津

川市の職員2名が来訪。同市内での取り組みの参考に、と熱心にサイトを見学したり、本会役員等との懇談の時間を持ったりした。



1月19日(木) 活動 晴れ 55名

いよいよ「夢・未来を語る集い」や「新春講演会」も目前に迫ってきた。そのための打ち合わせや確認も頻繁に行われる。「何とか無事に終わって欲しい」が会員の正直な胸中か…。里山Gはほど木の玉切りや薪割り、エコGはエンドウやソラマメの支柱立て、そして景観Gは実りの森の竹林整備に取り組む。

また、ビオ班は池の整備や木道補修、花班は山野草園の草取り、そしてパト班はパトロールに加え、倒木片付け等にも時間を使う。これからは更に寒くなる。元気に活動を続けたいものだ。



里山グルーブだより

村上雅之

◆食べれるならやま産マツタケ

小耳に挟んだんですが、昔、ここならやまでバケツに溢れる程マツタケが取れたとか。再現したいものですね。

ところで、同じ茸でもシイタケやシメジは人工栽培が出来るのに、マツタケは大変難しいらしいですね。シイタケやシメジは枯木を腐朽菌が分解して養分を得る菌に対して、マツタケの菌は菌根菌といって、樹木の根から光合成で作られた養分をもらい、木は菌根菌から土中の窒素や水分をもらっての共生形態を取っているらしく、人工栽培が難しい原因の様です。その為、マツタケは生木の根にしか育たず、その場所では菌糸が浅い土中でドーナツ状に白色化状態となり、そこにマツタケが生育する様です。



今年の秋にはその様な場所を捜してマツタケを見つけてください。

マツタケはアカマツだけにしか生えないと思っていましたが、クロマツやブナ、トドマツ、エゾマツにでも生えるらしいですよ。

昨年11月に皆さんとの協働作業で、ならやまの南側皆伐斜面をマツと一部の樹木を残して再度皆伐していただきました。多数のマツの若木も2mを越す程に生育しており、あと10年もすればここにマツタケが生える胸算用ですが、しかし、その頃私はもう…。でも、ベースキャンプでは販売部長の力強い声で「マツタケが沢山取れました！1本千円です！」。期待しましょう。

マツタケのあの香りは日本人独特の嗜好らしく、欧米人には不快臭とを感じるらしい。モッタイナイ。世界的に和食ブームで、そのうちマツタケの美味しさが分かり、更にマツタケが高値となるのでは。



里山の今

エコファームだより

弓場 厚次

◆2017年：「そら豆」の栽培

本誌新年号のファームの作柄評価で金賞を頂いたナス、「ほのぼの市場」の主演として本年度も栽培場所は決まり、土壌整備のチップ入れも済ませて春を待つ処です。

「秋茄子は嫁に食わずな」といわれますが、秋茄子は体を冷やすので、大事な嫁には食べさせるなどの願いから出た諺です。ナスを多食すると内臓が冷えるから、嫁の体には良くないとの解釈で、民間療法で「のぼせ」や「食当たり」に使われ、鎮静・消炎作用が期待された様です。「ナス紺」と呼ばれる紫紺色の皮には抗酸化作用の高いナスニンが豊富に含まれ、出来るだけ皮ごとの調理で美味しく頂いてください。

今年はナスに加え、新しく「そら豆」の栽培が加わり、昨秋10月13日に種蒔を実施した。

品種は「三連」と「仁徳一寸」の2種類を育苗の為にポット栽培で2週間、自宅管理



の上、本葉2~3を残して剪定の上、10月27日に定植を行なった。発芽率は「三連」21株・88%、「仁徳一寸」17株・60%で、まずは冬場の寒冷期対策と水分の補給・追肥等の管理に加え、整枝作業の習得に努めて行きたいと思います。

「そら豆」は未熟で緑色のマメを茹でて食べますが、「美味しいのは3日」と言われ、鮮度が落ち易く、すぐに調理するのがポイントの様です。



「そら豆」の栽培は川井さんとご一緒に作業し、美味しい豆が沢山出来る様に努力いたします。

景観グループだより

池田富子



里山の今

パトロール班だより

山本隆造

◆ならやま花壇の夢

四季折々ならやまの会員、道行く人々が感嘆する花壇作りをやってみたいと思っているが、現状は花組少人数で西谷先輩の指導の下、あちこちに点在する花畑の、花の種まき・移植・草引き・花壇の手入れ等に追われる作業日である。

将来のならやまユートピアを目指して、花は欠かせない存在であると思う。現状を踏まえながら、将来を見据えた計画的な花壇作りを夢見ている。たとえば、道路の両脇の畑に人の目を楽ませる花壇を、奥の方にはあまり手入れの必要のない花木（蠟梅・南天・千両・万両・その他会員に頒布できるような花・木）を植えたい。会員の皆さんも、家庭での生け花、お墓参りの花等必要な方も多々おられるのでは……。そんな方に実用を兼ねた花壇にして頒布、ほのぼのの基金に奉仕、趣味と実益を兼ね備え、その上、人々に愛でる楽しさを提供出来る。

いずれにしても人を感動させるには一品種にかなり広い耕作地が必要なことだ。1カ所に同一花が一斉に咲き乱れた花壇は人々に感嘆を与えるのでは……。将来的にはならやまシンボル木、その元に「奈良・人と自然の会」の花文字など夢は広がる一方だが、無理な夢見かなあー……。

現状の花組5・6人では無理！
お願い、花組で作業していただける方いらっしゃいませんか。現状を脱皮して夢見る花つくりの参加者を求めます。

花のことは何も分らないと敬遠されている方、黙々と雑草引きも“やった”と達成に満足感！そして自分たちで育てた花たちの開花時の感動！を味わってください。

男性も必要です（耕作地の作業・生垣づくり等）。沢山の人が集まれば発想も夢も広がる。よろしく。

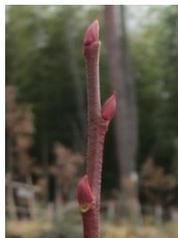


◆冬芽に感動

冬のならやま自然観察路は明るくて気持ちよく歩けます。天気がよい日は暖かな日差しの中、落ち葉を踏みしめながらルンルン気分です。パトロール班による階段の補修も一段落し、快適な状態が保たれています。ナラ枯れの後遺症で、道に倒木や落枝があつたり、頭上の立木に掛り木があつたりで、注意しながらではありますが……。

佐保自然の森まで足を延ばすと、ソシンロウバイが透き通った黄色の花を咲かせ、ほのかな香りを漂わせています。入り口のサンシュユはたくさんの蕾をつけ、春先の開花が楽しみです。

先日、自然観察会に参加しました。午前中はベースキャンプや畑周りで、春の七草を中心に野草の観察。午後は山に入り、冬芽の観察でした。普段パトロールなどで自然観察路はよく歩きますが、ルーペ片手に冬芽を観察しながら歩くのは初めてです。コシアブラ、タカノツメ、コナラ、ネジキ、クロモジ、ザイフリボクなどなど。かわいい冬芽をルーペで見ると、それぞれ個性があり感動です。試験皆伐地区でたくさんの萌芽が見られるネジキは、赤い枝と冬芽が手に取る高さで観察でき、美しく、生け花の材料にもなるとか。クロモジは葉芽と花芽が絶妙のバランスで、思わず微笑みます。ザイフリボクは冬芽に白い毛があり、枝先が白っぽく見えます。



ネジキ



クロモジ



ザイフリボク

少し慣れれば葉や花は無くても、冬芽で何の木かわかるようになるそうです。冬の自然観察路を歩く楽しみがまた一つ増えました。

皆さんも時間を見つけて山に入り、ルーペ片手に冬芽を観察しては如何でしょうか。

ならやま虫だより

菊川年明

◆恐ろしいものに化けて身を守る
今月も昆虫はほとんど出ないので、擬態の話題で虫だよりに代えさせていただきます。

***ハチに化ける**

ハチに擬態した昆虫はいろいろいるが、その中でもヒメアトスカシバ(下の写真)は好例である。ガの1種で昼間も活動する。(ならやまで撮影)



***怪物に化ける**

アケビコノハ(ガ)の幼虫(下の写真)が好例である。背中に大きな目玉模様があり、それがよく目立つようなポーズをして、捕食者の野鳥を驚かせる。(ならやまで撮影)



***毒チョウに化ける**

アゲハモドキ(ガ)はジャコウアゲハ(チョウ)に擬態している。ジャコウアゲハの幼虫は有毒のウマノスズクサを食草として成育し、成虫になっても毒成分を体内に蓄積していて、野鳥が捕食しないので、このチョウに化けて天敵を騙す。ちなみに、ジャコウアゲハはならやまBCに定着している。



左：アゲハモドキ(奈良高畑町で撮影)
右：ジャコウアゲハ(ならやまで撮影)



里山の今

ならやま花だより

倉田 晃

寒さや乾燥のため、冬は植物にとって厳しい季節ですが、けっこうたくさんの植物が緑の姿で頑張っています。ならやまのフィールドを見てもホトケノザ、オオバコ、キュウリグサ、オオイヌノフグリ、オランダミミナグサなどなど。中には花を咲かせている草もあり、頑張れよ！と声援したくなります。



この時期イネ科ではスズメノカタビラの芽吹きが目立ちます。本体は図のように10~25cmとあまり大きくない草で、冬の初めから翌年の秋まで見られます。12月の終わりにならやまに行ったときには、あちこちで早々と穂をつけている姿に出会いました。

漢字では「雀の帷子」と書きますが、花穂を雀の着る帷子(夏に着る単衣の着物)にたとえたようです。いったい誰が名づけたのでしょうか。また、葉っぱの先がボートのへさきのように丸く膨らんで、なかなか可愛い形です。

イネ科はとてもたくましい植物です。固く大地をつかんだ根、風を利用した受粉方法、一粒の種から多数の新たな種を作り、それをどさっと地面に落として、集団で生存を図る生き方、違った種類が時期をずらして順番に現れてくるなど、なかなかの工夫を見せてくれます。

イネ科の植物は私たちに主食を供給してくれる草本であり、貴重なパートナーだと言えます。五穀豊穡という言葉がありますが、このうち4つまではイネ科であり、このあたりもイネ科と人間の深い関わりを表しています。

いろいろな楽しい自然遊びを提供してくれる植物でもあります。さまざまな笛や自然工作などきつと小さい頃楽しんだ思い出があることでしょう。

ちょっと手ごわい感じもありますが、ぜひ興味を持って観察してください。



ススキのミミズク

鳥シリーズ 1月号 小田久美子
続「酉・とり・鶏」

我家は夫が酉歳。今年の初詣は足を延ばして石上さんにお参りしました。テレビの影響もあるかと早目に家を出ましたが、想像をはるかに上回る人出は静かで大好きな古社ではありませんでした。いつもはのんびりお庭を闊歩している「鶏」さんたちは早々とどこかへ疎開させた(?)のか、お賽銭箱の向うの拝殿の端に写真で鎮座しておりました。

「とり」は『古事記・日本書紀』の中でも大事な役目の「とり」でもあります。(以下古事記より)速須佐之男命の乱暴狼藉を恐れた天照大御神が、天石屋戸の中にお隠れになり、世の中が真暗闇になりました。八百萬神が天安之河原に集まって相談し、「常世長鳴鳥」を集めて互いに鳴かせ、伊弉許理度賣命が鏡を、玉祖命が八尺勾玉を作り、天宇受賣命が裸で踊り、皆で楽しく大騒ぎして、天照大御神が何事かと顔を覗かせるところをこちらにも神がいますからと鏡を見せます。「おや?」と乗り出す天照大御神の手を天手力男神が引き出すとたちまち高天原・葦原中国は明るくなりました。

須佐之男命は髭を切られ、手足の爪も抜かれて高天原から追放され、「八岐大蛇退治」へとお話しは続きます。その大蛇の腹から出た「草薙剣」は、12代景行天皇の御世、焼津で倭建御子の命を助け、「鏡」「勾玉」と共に天皇家の印「三種の神器」となります。現代の私たちに「日蝕現象」を連想させるこの光景ですが、まだ暗い夜明け前に鶏が鳴き、それに応えるかのように太陽が上がる不思議。

その太陽が見えなくなることは古代の人々にとって一大事件だった事でしょう。この神話から京都の祇園祭の「鶏鉾」が作られています。

去年は若冲生誕百年で、猫も杓子もの「若冲ブーム」の年でした。若冲フェチ16年の私は「とり」と言えばこの「鶏」です。



歴史文化クラブ 1月オプション行事
「大神神社初詣と三輪山登拝」

1月10日(火)、今回は昨年に続く二度目の三輪山登拝である。今年から月例研修会と歴文の共催の初詣として毎年1月の恒例行事となった。

25名が参加、天気は晴れ、気温も暖かい。参道は掃き清められ、境内は朝が早いせいか参拝者も少なく、厳かな雰囲気漂っている。

大神神社には本殿はなく、拝殿の後にある三つ鳥居を通してご神体の三輪山を拝む原初の神祀りの様式である。山頂には「奥津磐座」があり大物主神の神霊が宿る依代である。ヤマト王家はこの神を畏れ敬い、歴代大王自らが丁重に祀ってきた。

「拝殿」に昇殿し、まず手を洗い清めて全員が居ずまいを正す。神職の祝詞が厳かに奏上され、当社の鎮魂詞「幸魂・奇魂守給幸給」が唱えられ、古川さんが奈良・人と自然の会を代表して玉串拝礼を行う。会の繁栄、会員の安全、そして活動日の好天をお祈りした。

次に二人の巫女さんによる鈴祓いがあり、鈴の妙なる音は静かに心の奥底まで染み入り、まこと心身が清らかになる。お神酒を頂いた後、拝殿の横に移動し、三つ鳥居を通し三輪山を参拝した。

大神神社のご祭神「大物主神」と「大己貴神」はいずれも大国主神と同一神。「少彦名神」は大国主と共に国作りに携わった小さな神で、ガガイモの鞘に乗ってやって来たという。

大物主神の「荒魂」を祀る狭井神社から三輪山に登山する。三輪山は形が美しいことに加え、大和平野からみて太陽が昇る方向にあることから、神が降臨する神奈備山として、古くから(弥生時代頃か)土着の信仰対象とされてきた。

山中は杉や檜の大木が鬱蒼と茂り、森厳な雰囲気がある。登り1時間半、下り1時間の行程であった。

「福神堂」で三輪そうめんを肴に「三諸の酒」を頂く。崇神天皇の時代、「高橋活日」が神酒を造って天皇に奉り、「倭成す 大物主神の醸みし神酒」と歌い、大物主が酒造りの神であると称えている。(中井 弘)

歴史文化クラブ 12月研修会

「地元史の深掘りと座学」 中井 弘

12月20日(火)、西大寺駅北口に23名が参集した。小さな雨粒が落ちてくる中、平城宮跡に向けて出発する。暫くして歴文日和に回復する。

まず佐紀幼稚園裏の隆光大僧正の墓所を訪れる。しかし、みすぼらしい墓である。失脚した隆光の晩年の立場が読み取れる。

歴文会員の岩本先生から解説を聞く。

隆光は慶安2年(1649)ここ超昇寺村の川邊家に生まれた。長谷寺などで学んだ後37歳で將軍家の祈禱寺である江戸知足院(護持院)の住職となる。五代將軍綱吉の信頼を得て大僧正にまで登りつめるが、綱吉は悪名高い「生類憐みの令」を出し、世間ではその背後に妖僧隆光がいたと噂した。岩本先生は隆光の破格の抜擢に対する妬みがあったとしている。隆光は綱吉と生母桂昌院に働きかけ、松永久秀の兵火で焼失していた東大寺や唐招提寺、法隆寺、室生寺など多くの古刹再建に貢献した。奈良の大恩人であるという。

平城宮跡のほぼ全域が特別史跡として保存され、2010年の平城遷都1300年には大極殿が完成した。世界遺産にも登録されるが、礎を築いたのが植木商・棚田嘉十郎、宮跡の地主・溝邊文四郎、山下鹿蔵たちであった。嘉十郎は私財を投じて家産を傾けてまで宮跡の保存運動に奔走するが、宗教団体がらみの土地買収トラブルに巻き込まれ世間の糾弾を受け絶望、大正10年に自決する。

・嘉十郎辞世の句:「つくしても つくしきれない君のため 心きめるは きょうかぎりかな」

佐紀町に住んでおられる溝邊文四郎のご子孫・溝邊文昭氏、山下鹿蔵のご子孫・山下常治氏のお宅を訪ねた。

明治からの保存活動が判る多くの日記、書簡、徳川侯爵の感謝状、平城京址大内裏地図、宮跡の古地図・図面、写真、棚田嘉十郎の辞世句の掛け軸など、素手で触ることが憚れる貴重な資料が用意されていた。奈文研の研究者が泊り込みで調査、データ化して資料館に保存されているという。

・溝邊文四郎の句:「平城の野にみやしろは たつ

はなし 世に富む人はあまたあれど」

次に水上池ほとりにお住いの、川邊康雅氏のお宅を訪ねる。藤原房前の子、魚名にはじまる系図を拝見する。隆光(川邊隆長)の名も記載されている。康雅氏はれっきとした藤原氏の流れであり隆光のご子孫であることが分かる。壁に掛けられた超昇寺村の古地図も興味深い。



川邊邸を辞して水上池の東南角に出る。古川さんはここから往時の宮庭庭園松林苑の地形が認められると言う。聖武天皇がしばしば宴を開かれ、薬苑、菜園、狩場があった。最近の調査で東西1.8km、南北1.3kmの大庭園であったことが判明し、近年それを取巻く築地堀の一部がこの辺りで榎考研によって発掘された。今は新興宗教の建物に埋め戻されている。

座学は佐保川ふれあい会館で午後から行われた。

吉川利文氏の演題は「ジャーナリストから僧籍へ」。31年間社会部系の取材記者で多くの事件を手がけられた。凶悪犯罪の取材や死刑囚の処刑執行の現場など生々しい話。死者への鎮魂の思いから「死者はどこへ行った」を究明するため、佛教大学で3年間学び僧籍を取得された。

岩本次郎氏は「平城宮跡保存の原点を探る一北浦定政と棚田嘉十郎一」。北浦定政は古市奉行所役人・山陵研究家で「平城宮大内裏跡坪割之図」を著わし、これが平城京研究の基礎となる。

棚田嘉十郎は大極殿跡が牛糞の施肥場と化しているのに慨嘆。それが活動の原点となったという。

今回の地元史深掘りは地元の鈴木会長の人脈もあって興味深いテーマとなった。東笹鉾町の棚田、佐紀町の溝邊や山下など地元市民による保存顕彰運動が、今日に繋がったことを忘れてはならない。

自然教室だより

辻本信一

1月・冬のならやま自然観察会報告

平成29年1月11日(水)今年初めての自然観察会をならやまベースキャンプにて実施いたしました。題して「冬のならやま自然観察会」。寒空の下、それでも14名の方にご参加いただきました。

3回目となる今回のならやまでの自然観察会のテーマは、「冬の厳しさに耐え春に備える植物の健気な姿を自分たちの目で確かめ、みんなでその感動を分かちあおう」という事で、午前中は畑周りの草本を中心に観察を行い、午後からは里山林に足を運び、木本中心にこの時期の冬芽を観察しました。



【参加者の皆さん】

まず私達を迎えてくれたのは、先日の七草粥でいただいた「春の七草」の代表、「ナズナ」と「ハコベ」。これらの植物は寒い冬をすこしも嫌がらず、開花準備を整え、春一番乗りを競うように青々とした姿で元気いっぱいにご経過しています。

また、冬の寒さや風雪に耐え、少しでも太陽の光を受け止めようとバラの花の様な形をした^{こんせいよう}根生葉「ロゼット」を鑑賞できるのもこの季節です。



【畑周辺での野草観察】

日当たり良く、栄養も十分な畑の周りは野草の宝庫。この日出会った植物(草本)は、

イモカタバミ(地中の鱗茎観察)、ミドリハコベ、コハコベ(茎に少し赤みを帯びる)、ウシハコベ(葉がしっとりとした感じ)、ナズナ、タネツケバナ、

アメリカフウロ(紅葉が美しい)、オオイヌノフグリ(可哀そうな名前、でもきれいな可愛い花)、ホトケノザ(閉鎖花にも注目)、セリ(ドクゼリとの違いは肥大した根茎が無い)、チチコグサモドキ、コオニタビラコ、等々。

午後、冬芽観察第1号は亀甲模様も鮮やかなザイフリボク、芽鱗の間からは白い綿毛が覗きます。

続いて、赤く色づくネジキの冬芽。コクサギを含めこれら3木の冬芽は三大美芽と称されています。



【ならやま里山林での冬芽観察】

他にも両手に小さなグローブを構えたようなクロモジの冬芽にも皆さんの目は釘付け。「かわいい」「かわいい」の声が上がりました。他にも赤い実をつけるもの、常緑樹や独特の木肌で存在感を示すものなど、次のような植物を観察しました。

アカメガシワ(冬芽の姿でしっかりと十字対生も確認出来ました)、カマツカ(葉を落としても赤い実だけが残っていました)、カナメモチ(若葉は赤色を帯びベニカナメかも?)、タカノツメ(冬芽の形は文字通り)、マンリョウ・センリョウ(どちらもきれいな赤い実をいっぱいつけていました)、ヒサカキ・サカキ(葉に鋸歯が有る無しで違いを観察)アセビ(ネジキと似るが常緑)、シャシャンボ(こちらでも常緑で葉の裏には主脈に小さな突起)、クロバイ、等々。



【本日の振り返り】

最後の振り返りでは、「今回来られなかった会員の皆様にも紹介したい」「自然観察は楽しい、これからも続けて参加したい」の有難いお声。

是非、次回は皆様もご参加ください。

創立 15 周年記念 新春講演会

辻本信一

今年度の「新春講演会」は、当会創立 15 周年の記念イベント「夢・未来を語る集い」の前段として、下記要領にて実施いたしました。

日 時：平成 29 年 1 月 22 日（日）

午前 10 時～午前 11 時 30 分

場 所：奈良ロイヤルホテル・鳳凰の間

演 題：「父は空 母は大地 先住民の思想」

聴講者：66 名

講 師：寮美千子氏（作家・詩人）

（講師略歴は、会報 1 月号行事案内を参照）

【講師：寮美千子氏】 【熱心に聞き入る参加者】

冒頭、鈴木会長のご挨拶と講師紹介。



講演要旨：

・幼少時より人間について根源的な事を考えてしまう子供だった。その答えを探求すべく「科学」や「神話」・「民俗学」の道に足を踏み入れた。

・1992 年アジアン・カルチュラル・カウンシルの芸術交流プログラムでアメリカに 2 か月留学。アメリカの最先端科学見分と最も古い文化に触れることをテーマとし、毛利さん搭乗のロケット打ち上げ取材、アメリカインディアンの居住地も訪ねた。

・ホッキ族の居住地では、農作業より自然にゆだね任せる生き方を学んだ。母なる大地を汚すウラン採掘に抗議する裸足のアースランニングも知った。

・アメリカに対し留学のお返しを、と思った時アメリカ先住民シアトル首長の Chief Seattle speech に出会い、日本で絵本にすることを思い立った。このスピーチは 1854 年条約を結び土地を手放し、居住地に移り住むことになった時首長シ

アトルがアメリカ大統領に対し訴えたもの。先住民の世界観、大地との付き合い方がよく表されている。数多いバージョンの中から人間と大地に関わる根源的な言葉をピックアップし切り貼りし仕上げた。

・絵本「父は空 母は大地」を朗読。

（アメリカ先住民の音楽をバックに、自然を大切に思い生きるアメリカ先住民の姿を語る寮講師の澄んだ言葉は、強く我々の心を打ちました。）

・日本帰国後、北海道でもこのような本を書いてもらいたいとの依頼を受け、絵本「おおかみのこがはしってきて」（北の大地の物語）を著した。

・オオカミの子が走って来て、氷の上で転んだのを見た男の子が、お父さんになぜ転んだのかを尋ねる。お父さんは自然の中での強い物、弱い物の話をし、自然の営みは循環していることを教える。最後に大地が一番偉く、そこから色々なものが生まれ、生れて来たものはみんな兄弟だと教える。

・第 2 弾として「イオマンテ」執筆。冬眠中の熊の親子を狩るアイヌの熊猟。母熊は獲物にするが、子熊は連れ帰り、カムイ（神）の国からの賓客として大切に育てる。一・二年後、大きく育った子熊をカムイの国にいる母熊のもとに送り返す。「送る」とは、実際には、熊の命を奪うこと。少年は、子熊との別れのつらさのなかで、命の重さと尊さを痛いほど感じる。そして、「わたしたちは誰かの命をもらって生きている、生かされている」ということを学ぶ。

・アイヌの人たちは自然に感謝し、奪い過ぎないこと、過剰なことをすれば必ずしっぺ返しが来るということを経験し、長い歴史の中で体感して知っている。現代人はすべての面で規模が大きくなり過ぎた。自然との共生が如何に大事かを訴えたい。先住民アイヌの深い知恵に学ぶべきことが沢山あった。

・自然との共生が何より大事。それにつけても自然を野放しにということではない、里山と言うものは純粋な自然ではなく、自然に手を加えられたものではあるが、その中で多様な生物が息づき、豊かな生態系が築かれている。

・ならやまの皆さんの里山保全の活動は素晴らしいものとして共感している。今後若い人たちにもしっかりと伝えてもらいたい。

創立十五周年記念 「夢・未来を語る集い」 懐旧談・未来談満開

寒さ厳しい中にも、梅の花が一輪一輪と開く新春の1月22日、創立十五周年記念「夢・未来を語る集い」を奈良ロイヤルホテルにて開催しました。(来賓19名、会員62名の計81名参加)

来賓として、仲川げん奈良市長、奈良県からはくらし創造部佐野勝次長、景観・自然環境課坂野三輪子課長補佐、古都管理係鈴木誠係長、同山下琢弥主事、それにシニア自然大学校齋藤隆理事、ならコープ森宏之理事長、いこま棚田クラブ出口育宏代表、いこま宝の里磯貝猛代表、東京海上日動火災保険(株)奈良支店副田伸也次長、日本NPOセンター丸山佑介氏、奈良市立佐保台小学校荒木美久子校長、同校運営委員平井隆三氏、奈良市佐保川地区自治連合会金野秀一会長、ならテレビ放送(株)小池重二報道統括、作家・詩人寮美千子氏、ならまち通信社松永洋介氏、佐紀町西川菊次氏、歌姫町早川芳雄氏ら各界から19名もの皆様方にご臨席いただき、錦上花を添えていただきました。



鈴木会長は開会の辞として、「15年にわたる歩みを辿りつつ、今日を迎えることができたこと」への謝辞を述べたうえで、集いの意義を「新しい明日に向かって『夢・未来』を大いに語り合っていたきたい」と強調。さらに、「地域貢献活動にも積極的に取り組んでいきたい」などと抱負を語りました。

続いて、5名の来賓の方々から祝辞をいただきました。それぞれのお立場から、奈良・人と自然の会の今日に至る活動についての高い評価、そし

て経験豊富で多才な能力を持つシニア世代に対する期待感が溢れたお言葉をいただきました。

とくに、「行政との連携・信頼関係」「市民の福祉と健康な生活への支援活動」「歴史的風土・古都保存」「明日の奈良を元気に」等々が異口同音に語られていました。中でも、仲川げん奈良市長から



は「ならやまの活動を百歳ぐらいまで続ける意気込みで頑張ってください。知識と経験を持った元気なシニアが、地域の自然環境に対する関心を高め

ていく担い手として大いに期待しています。15年前に教えられた子供たちが、今は教える立場となっています。皆様の活動の種が芽をだし、次の世代にしっかりとつなげていくことを期待しています」と、力強い励ましのお言葉をいただき、会員一同感激を新たにしました。

続いて、顧問の川井秀夫さんに乾杯の発声をお願いし、歓談に入りました。

会場正面右側のスクリーンに映し出される「15年の歩み」スライドショーの前では、草創期に忍辱山国有林の間伐作業で先駆的リーダーとしてご活躍された寺田正博さんが、当時の写真を感慨深げに見入っておられました。森林技術者としての熱意ある指導が、次世代に受け継がれ、今日のならやままでの景観整備と保全につながっています。

県景観・自然環境課の坂野課長補佐は、以前の風致景観課の時から今日まで、ご指導、ご配慮をいただけてきました。半世紀以上もの間、放置されて荒涼殺伐としていた里山林の景観整備を如何に進めていけば良いのか、大いに議論を重ねたものでした。そんな懐旧談に暫し花咲かせることができました。

最近入会された会員の皆さんからは、日本の原風景に近い情景に蘇ってきた時の流れを確認していただき、将来に向けての決意の程をお聴きすることができました。

歓談が進むにつれて、「夢・未来談義」も華やぎ深まると共に、素晴らしい「夢・未来ボード」が出来上がりました。感謝の念で一杯であります。

俳句

監修 川井 秀夫

野も山も春はまだかとセピア色 桜木 晴代

黒茶色の野山は冬眠さ中。寒も過ぎれば胎動が始まる。冬芽も膨らみ待春の思いが募る。春は近い。

ハフハフと類ばる大根桜島 桜木 晴代

本場に負けず「ならやま」産も上々の収穫。「ハフハフ」の擬態語が生きる。桜島を抑えにしたのがミソ。

牝鶏も旦を告げる御代の初春 古川 祐司

酉年の夜明け、どこかで鶏声が聞こえる。古代鶏は神を呼ぶ鳥。今年も吉年であつて欲しい。

蠟梅のこぼるるほどの蕾かな 古川 祐司

春のさがけ、蠟梅の花芽が膨らむ。冬きたりなば春近し、待春の情感が表出された佳句。

冬ざれの遺跡に賭すや男の義 坂東由紀子

十二月。歴史例会。平城宮跡復元の立役者、棚田嘉十郎。協力者の邸宅を歴訪。古文書の壮烈な記録に陶酔する。

初夢や佐保のチップにまみれたる 小山喜与男

エコファームの男たち。農閑期の作業は堆肥入れ。初夢は願望か、辛さの幻想か。今年も頑張りました。

浮寝鳥触れ合うほどに眠りたり 鈴木 末一

昨年のご苦労さんでした。お正月は浮寝鳥の心境でしようか。ひと寝入りすれば、また翔び立ちますか。

冬ぬくし野良が呼んでる一仕事 八木 順一

三寒四温。今冬は比較的温暖な日に恵まれる。そんな日に重い腰を上げて家庭農園の手入れ。やれば気分爽快じや。

かんばせを皺深くして枯野ゆく 八木 順一

ライダーマンには冬期は過酷。顔面が縮む様だ。事故に遭つて命を縮めないように。安全第一ですぞ。

磐座に鳩の二羽るて初登拝 羽尻 嵩

歴史C1月オープン行事。三輪山がご神体。依代に神の化身かも。今年が良い年になるかもヨ。

奥宮の言霊をきく寒椿 羽尻 嵩

荘厳な地に神の声。鳥の声、風の音、幻想的なひととき。人間、瞑想するとテレパシーが。寒椿に聞いて見るか。

今日よりは明るき世なり冬至かな 坂東 久平

冬至を過ぎると天空の真理が働く。陽光まで明るくなる。年が変り日一日明るさが増す。今年も開明の年でありたい。

凍てる田を尾羽ふりふり石たたき 西谷 範子

「石たたき」はセキレイの異称。休耕田に餌を啄む姿。蠢動の季節が待ち遠しい。鳥さんヨ。暫くのご辛抱。

七草の粥啜りたり 寿 川井 秀夫

「寿」は、(いのちなが)と読み俳句言葉。これも日本の食文化だが、昔の人の知恵を信じてご馳走様。

なつやま茶論

「願望」

竹本 雅昭

翁：オイオイやめてくれよ目に入るのは、白内障の手術も済んで良く見えると喜んでるんだから。

羽虫：あたしゃね、あんたが昔の思ひ焦がれた人に似てるんだもの、もう離れないわよ。

翁：よしてくれよ迷惑な、なんだい、ただ黒いだけで全く色気なんてないじゃん。

羽虫：あたしゃね、お志乃と言ってちっとは名の売れたものさね。

翁：それがどうして羽虫なんかに、何か良くないことをやらかしたな。

羽虫：いえね、若い男衆が何かと言い寄ってきて、よく岡っ引きの親分さんに世話かけちまってね。結局若い命を・・・。

翁：そりゃあ悔しかったろう。できることならもう一度、人としてやり直したいだろう。

羽虫：勿論そう願ってるわ、だからこの里山の一員として出来る事を懸命に務めてるのさ。

ナレーター：羽虫は地方によって呼び名は色々（ブユ・ブヨ・ブト・メマトイ）人に刺すこともある。

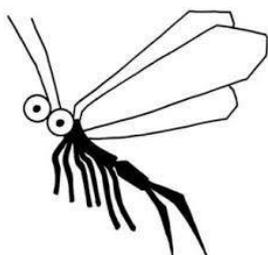
翁：ほう感心感心。同情はするが、羽虫に好かれても仕方ないから防護メガネするわ。

羽虫：アラ冷たい人ね。今度人間に生まれ変わったら心根を良くし、必ず極楽に生まれさせてもらうわ。

あんた先に行って待ってゝね。

翁：オイオイわしはまだまだ元気だぜ。

～終～



癒しの散歩道

冬の夜空はファンタジー

谷川萬太郎

暗闇に吸い込まれた街には

冬の冷い雨に濡れた舗道が
山裾の小さな灯りひとつ消え

雨上がりに凍てつく寒空よ
さやけく月の光と影を背に

靴音鳴らして歩く影法師は
凍えそうな身体を温めながら

指先丸めて頬に当て息を吐く
まどろみに耳を澄ませれば

誰が吹く夜空のトランペット

済みきった夜更けの街には

ファンタジックな星座が瞬く
届かぬはずの貴女の願いが

空高く舞い上がり寒風に乗る
時が止まれば何かが起こると

その果てに時空の宇宙遊泳
雲の海原は延々と晴れ渡り

果てしなく拡がりゆく雲海よ
ふと我に帰る時を待ちて

誰が吹く夜明けのトランペット



仲間入りしました



嶋田 良子

民謡で一緒させていただいている坂東さんから「奈良・人と自然の会」というボランティア活動があるよ！と教えてくださったときが、ちょうど私に時間の余裕ができたときだったので参加させていただきました。

そばの種まき、森林ボランティアでのなら枯れの伐採、とても楽しく汗をかくことができました。即、入会を決めました。奈良の自然にふれながら汗をかくことを、嬉しく実感しています。そして会員の皆様が温かく受け入れてくださり、楽しい時間を過ごさせていただいています。これからもどんどん参加させていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

松尾 弘

毎日新聞で寮美千子さんの記事を読んでこの会を知りました。すぐ娘のところでホームページと申込書も印刷してきました。入会申込書を送るまで1カ月くらいかかってしまいましたが、思い切って申し込んで大正解でした。毎回、毎回、楽しんでおります。

節目の年に入会したことは、私としても、いい記念になると思います。何の取り柄も無い私ですが、後からついていきますので宜しくお願いいたします。

2人で一人前ですがよろしく

池山 良武

“ならやまプロジェクト”と 奈良・人と自然の会のホームグラウンドが置かれている丘陵地域は、磐之媛命陵から黒髪山に向かう「奈良歴史街道」の北端に位置する。歌姫峠と共に、仁徳天皇や平重衡などの伝承を始め、平城の都から山城へ向かう数々の悲話も見聞きしてきたに違いない。

そんなロマンに満ちた地域も次第に人々の関心が薄くなり、ややもすると荒廃しかけている。ここをそんな運命を辿らせるわけにはいかない。

そんな思いで散歩をしていると、懸命に整備、維持管理をされているグループを見かけ、自分も何か手伝いたいと思い、尋ねてみたのが、入会のきっかけでした。喜寿を迎えて、これからは思うままに生き、なお晩節を汚さないよう心掛けたいと思っている。

池山 怜子

自然の光、音、匂い、それらが柔らかな風とともに満喫できる空間には誰しも癒やされるものです。けれども、最近それらは遠くへ出掛けたり、お金を掛けなければ得られなくなっています。「ならやまプロジェクト」の本来の運営主旨から離れてしまって、お叱りを受けるかも知れませんが、年齢に関係なく、時間に制約されず、気を張らず、体力に合わせて、リーダーさんの音頭のもとで、皆さんと楽しく動き、お喋りもしながら、これらを一日中満喫できるこの交流の場は、私にとって「贅沢」そのものです。

入会してまだ数カ月ですが、居心地が良いので満足しています。どうぞよろしく。





皆様からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品
パッチワーク・切り絵など



▲墨彩画「冬の法起寺」羽尻 嵩



▲水彩画「弘仁寺」 八木順一



▲パステル画「リンゴとしめじ」 有元康人



▲自然木クラフト「ウェルカムボーイ」
鈴木末一



▲陶芸「おねだり猫」 小島武雄

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

2月	2 (木)	9 (木)	16 (木)
3月	2 (木)	9 (木)	16 (木)
月	23 (木)	30 (木)	

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

里山 Gr

2/2 「協働作業の日」

イベント植樹用場所穴掘り（約 40 箇所）

枯死木伐倒・雑木伐採

マキ割り・薪材料の運搬・玉切り

9

記念行事用山桜木植樹（15本）

枯死木伐倒・雑木伐採

マキ割り・薪材料の運搬・玉切り

16

枯死木伐倒・雑木伐採／マキ割り・薪材料の運搬
玉切り／椎茸イベント用準備作業

23

椎茸イベント用準備作業／マキ割り・薪材料の運搬
／枯死木伐倒・雑木伐採



23

ジャガイモ サツマイモ 畝作り
ソラマメ支柱立て

景観 Gr

2/2 「協働作業の日」

整備：彩の森周辺の枯木撤去

ビオ：東池の泥除去作業

花：日蔭植物の整理、牡丹くさぎの撤去

パト：観察路の安全ロープ点検整備

9

整備：実りの森整備

ビオ：西池生物調査

花：寒肥施肥、入口花壇の草取り柵作り

パト：観察路の案内表示補修

16

整備：実りの森整備

ビオ：池の整備

花：ドイツアヤメ園草取り、柵作り

パト：観察路点検整備

23

整備：BC 周辺整備

ビオ：西池生物調査

花：山野草園整理、
名札立て

パト：25日のイベント準備



エコファーム Gr

2/2 「協働作業の日」

冬野菜など収穫 エンドウネット張り 追肥

9

冬野菜畑整備 耕耘

水田チップ入れ U字溝設置

16

苗床ビニールハウス補修

玉レタス リーフレタス種まき

イチゴ追肥マルチ張り、タマネギ、ニンニク追肥



行事案内 part 1



秋には植物で馬見丘陵を楽しみました。
今回はもう一つの魅力、冬こそじっくり楽しく味わう探鳥会です。寒さの中ですが、探鳥会に参加してみてください。



翡翠色が美しいカワセミも？

スコープで見る水鳥たちに初めての方は「わあ！」と感激します。また、知ってる人はもっと楽しくなることでしょう。

寒風について「レッツゴー！」
馬見丘陵公園でお会いしましょう。
鳥たちも大歓迎してくれること請け合いです。

日時：平成 29 年 2 月 27 日 (月)
9 時 40 分 (池部駅前集合)
場所：馬見丘陵公園
持ち物：弁当・飲み物・双眼鏡 (ある人)
図鑑 (ある人)
服装：暖かい服装でお越してください
経路：*西大寺 (8:54) ➡ 田原本 (9:16) 着・・・
歩・・・(乗り換え) ➡ 西田原本 (9:30) 発
➡ 池部 (9:40)
*王寺 (9:24) ➡ 池部 (9:31)
担当：勝田 均
小田 久美子



林野庁交付金事業 「シイタケ菌打ちイベント」実施のご案内

昨年 10 月、環境教育事業の一環として実施致しました「芋掘りイベント」に続き、林野庁交付金事業の中で教育研修タイプとなる「シイタケ菌打ちイベント」を佐保台小学校放課後子供教室の児童を中心に下記要領にて実施いたします。

1. 日時:平成 29 年 2 月 25 日 (土) 10:00~15:00
(雨天の場合 2 月 26 日 (日) に延期いたします。)



2. 場所:ならやまベースキャンプ及び里山林
3. 内容:午前:シイタケ作り (こま菌植え込み)
クヌギの植樹
昼食:ならやま名物の豚汁提供
午後:ならやま里山林「遊びの森」での「山遊び」
4. 参加者:佐保台小学校放課後子供教室の小学生
児童とその家族を中心に合計 60 名

毎回ご好評を頂いているイベントですが、今回は特に環境教育の一環として実施し、子供達とその家族の皆さまに自然の豊かさ、自然の大切さを、シイタケの菌打ち作業やクヌギの植樹を通じて学んでいただきます。

冬の寒さに負けず頑張る子供達をみんなで応援しましょう。スタッフとして、40名の会員の皆様のご参加をお願い致します。皆様、奮ってご参加ください。
(辻本信一)



行事案内 part 2

歴史文化クラブ2月研修会のご案内
島ヶ原にお水取り発祥の地を訪ねる

—伊賀市島ヶ原に東大寺お水取り発祥の寺を訪ね、上野に藤堂高虎の伊賀上野城、松尾芭蕉ゆかりの地を巡る—

奈良東大寺二月堂のお水取り（修二会）ももうすぐです。伊賀市島ヶ原にも、東大寺と同じ歴史を持つお水取りの行事があることをご存じでしょうか？今回は観菩提寺（正月堂）を訪ね、島ヶ原のお水取り（修正会）について、三重県の語り部さんにお話を伺います。足を伸ばして、伊賀上野では、藤堂高虎により築造された伊賀上野城、俳聖殿、芭蕉翁記念館、松尾芭蕉の生家、伊賀越仇討の舞台となった鍵屋の辻などを巡ります。忍者屋敷も有名ですが、今回は立ち寄らず、バスの中で伊賀流忍者の解説をします。寒い時期ですがマイクロバスで回りますので、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

実施要領

1. 日 時：3月1日（水）雨天決行
2. 集 合：近鉄大和西大寺駅南口
AM 8：30 出発（生駒交通バス）
3. 参加費：3,000円（バス代金）
*他に入館料が必要です。
4. コース：西大寺駅→鶴宮神社・観菩提寺→上野公園（昼食）俳聖殿、伊賀上野城、芭蕉翁記念館→芭蕉の生家→伊賀越資料館→西大寺（16：30 帰着予定）
5. 持ち物：お弁当・飲み物・寒さ対策
6. 申し込み：事務局 古川 祐司

（担当：青木、中井、川井、古川）



観菩提寺

3月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

- 3月 2日（木）協働作業の日
- 3月 23日（木）新入会員歓迎会
（雨→30日）

*月例研修会

- 3月 22日（水）歴史共催
楽しい明日香の古墳と万葉歌碑巡り

*自然教室チーム

- 3月 8日（水）春のならやま自然観察会

第五地区の正式名称「実りの森」に決定



昨年11月から12月にかけて、仮称「第5地区」の正式名を公募し、28の応募がありました。その中から選考委員（3役6名と顧問2名）が6つを選び、会員投票に付しましたところ以下のようになりました。投票総数 69

「実りの森」 22 (32%) 「陽だまりの園」 13
「花実の森」 11 「憩いの森」 11
「やすらぎの森」 6 「まほろばの森」 6

この結果を踏まえ、幹事会にはかり、2017（平成29）年1月から「第5地区」の正式名を「ならやま実りの森」（略称名「実りの森」）とすることに決定しました。

「実り」「花実」で33票、「陽だまり」「憩い」「やすらぎ」で30票の結果から、様々な作物の豊かな実りを楽しめる空間への期待と共に癒しの空間でもあってほしいという気持ちの表れと受け止めました。
（羽尻 嵩）

平成29年・1月度幹事会報告

日時：12月27日(火) 14:00~17:00

場所：奈良市ボランティアインフォメーションセンター 会議室 1-1

出席者：22名 欠席者：1名

議事：

I. 会長挨拶：本年度感謝と記念式典協力依頼

II. 事務局・会計報告

- ① 会員数 153名 (新入会員 1名増)
- ② ボランティア活動保険来年度改訂お知らせ
- ③ 会計報告：11月度収支報告

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

- 1. 3ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認
- 2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
今年1年活動参加者、シニア講座生とも増加
- 3. 月例研修会 (報告と予告)：会報記事参照
 - ・12/12「北・山の辺の道を歩く」報告
 - ・2/27 馬見丘陵にて探鳥会予定
 - ・来期計画発表 (来年度から年6回)
 - ・新春講演会は本部にて企画・実施
- 4. 自然教室 (報告と予告)：会報記事参照
 - ・12/7 奈良公園自然観察会実施報告
 - ・1/11 ならやまにて自然観察会実施予定
- 5. 歴史研修 (報告と予告)：会報記事参照
 - ・12/20「地元史を巡る」と座学報告
 - ・1/10 三輪山初登拝予定
 - ・来期計画発表、隔月実施他オプション企画
- 6. イベント (報告と予告)：会報記事参照
 - ① 12/8 芋煮会、12/12「忘年会」、12/22「迎春準備」(大掃除、門松・しめ縄作り他)、報告
 - ② 1/5「新春初出式」、餅つき・七草粥
 - ③ シイタケイベント担当者、予備日 3/4 決定
- 7. その他
 - ・第5地区「ならやま実りの森」に決定報告
 - ・平成29年度各種助成金申請状況報告

IV. 広報関係：ネイチャーなら2月号編集確認

V. 周年行事 (事業)：

記念事業委員会より記念式典説明

記念誌編集委員会より完成御礼

次回幹事会は、1/31(火) 14時 奈良市中部公民館

以上

◆ 申し合わせ ◆

- * 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。
- * 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
奈良県北部の降水確率は次のURLでも確認可能です。(http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html)
- * 臨時活動日を月曜日にする事があります。
(事前に担当役員から連絡します。)

◆ 自然は想定外



昨年から、世界中で想定外の事が多く起こりました。

日本では、1月中旬から今冬最強の寒波に見舞われ、奈良でも雪が積もりました。センター試験の時期とも重なり、受験生は大変だったと思います。

自然現象の予測技術はかなり進歩しましたが、データの数が少ないことも原因の一つで、火山の噴火や大地震、巨大台風の発生などの予測精度は、余り期待できません。

私達は、ならやまの自然と向き合って、10年間を過ごしましたが、なかなか思うようになっていません。これからも、この難しい自然と共生して、頑張っていくようではありませんか。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第181号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平